

十勝農試は作物の作柄を良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で1カ月ごとに判断している。

秋まき小麦(きたほなみ)は、越冬後の生育状況は良好で、5月中旬までは気温が高く推移して出穂期が早かった。茎の長さの稈(かん)長は長く、穂長は平年並み、穂数は多かった。成熟期にも平年より2日早く入ったが、7月中旬の雨で倒伏が多発し、子実の生育が不良で低収につながった。

ビートは、移植期は雨が少なかったが十分な土壤水分があり順調に活着した。8月20日の調査では「良」だったが、高温多湿の影響で9月以降は褐斑(かっぱん)病が広がった。根重は平年並みだったものの、根中糖分や糖量は少なく、連続台風被害に見舞われた16年以來の「不良」となった。

大豆は、出芽後は6月上旬の低温で生育が停滞したものの、開花期やその後に気温が高く推移して着莢(ちゃっきょう)数や登熟は順調に進み、子実重は平年比21%増と多収になった。

小豆も出芽後の高温の影響で生育は平年より早く進んだ。「きたろまん」の着莢数は平年並み、粒数は平年をやや上回った。「エリモショウズ」は着莢数は平年をやや上回り、粒数は平年並みだった。最終的に子実重は平年並みだった。菜豆は、雪手亡が子実重が多収だったが、成熟期前の交付で着色粒が発生した。金時も降雨で歩留

まりが落ちたものの多収となって、全体の作況は「やや良」だった。

ジャガイモは「男爵」が、生育の指標になる1個20グラム以上の「上いも」の重さが平年の13%増と収量が多く、でん粉価は平年並みだった。「トヨシロ」の上いも数も平年より多く、でん粉価も高かった。

十勝農試は「温暖化の影響もあって、夏に雨が多くても気温が下がりにくい傾向が表れた。作物によって受ける影響は異なり、今年小麦は倒伏、ビートは病害発生などのマイナスに働いた」としている。



試験研究の中で定期作況調査も行っている十勝農試のほ場

◆ 十勝農業試験場の  
2022年の  
定期作況報告

	秋まき小麦	大豆	小豆	菜豆	ジャガイモ	ビート
5月20日	平年並み	—	—	—	—	やや良
6月20日	やや良	やや不良	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
7月20日	平年並み	やや良	やや良	平年並み	やや良	やや良
8月20日	やや不良	やや良	やや良	手亡類: やや不良 金時類: やや良	良	良
9月20日	—	やや良	やや良	手亡類: 平年並み 金時類: やや良	やや良	平年並み
10月20日	—	良	平年並み	やや良	—	不良

## 酪農・畜産

小椋さん(上士幌) 出品牛最高賞

2022年6月4日(土)

北海道ブラック&ホワイトショウ

「期待していた牛、うれしい」 十勝勢の9頭チャンピオン

乳牛の資質を競う「2022年北海道ブラックアンドホワイトショウ」(5月21日、胆振管内安平町)で、上士幌町萩ヶ岡の小椋淳一さん(37)が出品した牛が、最高賞のグランドチャンピオンに選ばれた。各部のチャンピオン受賞牛10頭のうち9頭が十勝勢で、3年ぶりに開かれた大会で好成績を残した。

同大会は北海道ホルスタイン改良協議会が主催。乳牛改良に取り組む道内の酪農家が出品し、高乳量や多産につながる乳器、体形の美しさなどを月齢や品種ごとに競う。

第1部(育成ジュニアクラス)～第16部(ジャージー種3歳以上クラス)に、全道の433頭が出品された。各

部の1位がジュニア(未経産牛)とインターミディエイト(2、3歳経産牛)、シニア(4歳以上経産牛)、ジャージー種の部門に分かれ、各部門のチャンピオン牛4頭の中からグランドチャンピオンを選出した。